

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
造形表現Ⅱ Art expression II		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程必修・教職課程必修(幼稚園教諭二種))	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
造形表現Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
田村田	授業中に指示します	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
児童保育の現場における造形表現活動の内容を理解し、それぞれの内容について目標、題材、指導方法等の研究を、自己の作品作りを通して造形活動と結びつけて深める。また造形表現Ⅰで学習した基礎の上に、共同制作体験等で個人の表現と集団での表現の違いを深めることができる。				
授業の目標				
①素材の持つ造形上の特性についての理解を深めることができるようにする。 ②様々な表現方法から展開する造形活動を通して、自己の表現を構成する力を育むことができるようにする。 ③造形活動に必要なアイデアを、様々な関連から展開する力を育てることができるようにする。 ④共同制作に取り組むことにより、集団の表現を体験することができるようにする。 ⑤講評会にてイメージ、構想、表現を交流することで、表現方法の違い、意図、工夫を発見し、お互いを認め合うことができるようにする。				
授業の方法				
課題の制作、講評会の発表(制作は個人の取り組みとグループでの取り組みの両方で行います。) 学生同士で作品に対しての意見交換をすることで自身の作品を振り返る。				
学習の成果(学習成果)				
①様々な素材との触れ合いの中で、造形表現のための基礎能力を高め、制作する過程で工夫する力を育み、指導者としての「表現力」と「観賞力」を高めていくことができる。 ②造形表現Ⅰで学習した基礎を行かした共同制作をすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (美術教育の意味、授業内容、用具、評価等の説明)			
第2回目	粘土造形—① 「各自がデザインし、素材を活かした制作」 (考える)			
第3回目	粘土造形—② 「各自がデザインし、素材を活かした制作」 (心棒をつくる)			
第4回目	粘土造形—③ 「各自がデザインし、素材を活かした制作」 (粘土付け)			
第5回目	粘土造形—④ 「各自がデザインし、素材を活かした制作」 (粘土付け～形の完成)			
第6回目	粘土造形—⑤ 「各自がデザインし、素材を活かした制作」 (彩色)			

第7回目	作品講評会	
第8回目	クリスマスリース作りー① 「各自がデザインし、素材を活かした制作」 (考える)	
第9回目	クリスマスリース作りー② 「各自がデザインし、素材を活かした制作」 (表現する)	
第10回目	クリスマスリース作りー③ 「各自がデザインし、素材を活かした制作」 (創意工夫～完成)	
第11回目	作品講評会	
第12回目	共同制作ー① 「テーブル毎にデザインし、素材を活かした制作」 (考える)	
第13回目	共同制作ー② 「テーブル毎にデザインし、素材を活かした制作」 (表現する)	
第14回目	共同制作ー③ 「テーブル毎にデザインし、素材を活かした制作」 (創意工夫～完成)	
第15回目	作品講評会	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業中の制作意欲 (必要な教材や素材を準備している。自己表現する準備が明確である。作品の完成に向けた取り組みが積極的である。)
レポート	50%	課題作品提出
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容 (態度含む)	20%	課題作品の自己評価及び分析等
その他		
教科書と参考図書		
特になし		
履修上の留意点・ルール		
授業に必要な材料、用具類は各自そろえて自己管理する。課題に対し意欲的に取り組む。		